

「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会設置事業」
(厚生労働省委託事業) について

1 背景・経緯

- (1) 厚生労働省・経済産業省は介護ロボットの開発に関して、5分野8項目の重点分野を設定している(別紙のとおり)。
- (2) 厚生労働省は、現場ニーズに基づいた新たな介護ロボットの開発コンセプトを募集するため、昨年度から「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会設置事業」を実施。
- (3) 本事業では、介護施設や開発メーカー等で構成される協議会を設置し、介護現場における課題(ニーズ)とメーカー側で対応可能な技術(シーズ)を協議し、現場で求められる新たな介護ロボットのコンセプト案を作る。
- (4) 本市として国の公募に入札参加したところ、7月受託が決定し、年度内に事業を実施することとなったもの。

2 本市の提案内容

本市は既存の重点分野に該当しない新たな項目(その他支援枠)に採択された。作業負担計測結果に基づき、下記のコンセプト案を策定する。

- ①介護記録支援ツール
- ②ベッド上アシストツール
- ③排泄情報分析ツール

※詳細は別紙のとおり

3 スケジュール

- 9月27日 第1回連携協調協議会
- 10月中 コンセプト別専門部会(3回)
- 12月中 第2回連携協調協議会
- 2月中 第3回連携協調協議会
- 3月中 国の委員会(テーマ別検討委員会)で成果報告

本市が提案するコンセプト案（策定中）

① 介護記録支援ツール

【ポイント】

時間的負担計測によると、介護記録や巡回等の直接的に利用者に向き合えない職員の行動が多く抽出されている（職員の行動割合：約 29%）。

【検討すべき機能】

介護記録の入力や情報の参照・出力といった作業・手間を軽減し、介護従事者が利用者に向き合える時間を増やすためのツール

② ベッド上アシストツール

【ポイント】

身体的負担計測によると、体位変換時等における筋骨格系障害リスクが高いと抽出されている（改善すべき姿勢割合：約 25%）。

【検討すべき機能】

体位変換やオムツ交換時等、ベッド上で利用者を動かす際のスタッフの身体的負担（腰痛当）を軽減し、腰痛にならない働き方を実現するツール

③ 排泄情報分析ツール

【ポイント】

時間的負担計測によると、夜間における排泄介助の行動が多く抽出されている（20時～翌6時までの排泄介助：約 24%）。

また、オムツ交換は定期巡回サイクルで行われることが多く、排泄介助の適切なタイミングを捉えることが難しい。

【検討すべき機能】

センサーを活用し、利用者の排泄情報をモニタリングすることで、適切な排泄介助のタイミングを知らせ、オムツ外しや定期巡回の負担軽減につなげるためのツール。

協議会メンバー

分野	所属	コンセプト別専門部会
メーカー	有限会社ICS SAKABE	介護記録
	株式会社有菌製作所	ベッド上アシスト
	株式会社インフォメックス	介護記録、排泄情報
	株式会社コンピュータサイエンス研究所	介護記録
	TOTO株式会社	排泄情報
	ノーリツプレジジョン株式会社	介護記録
	パラマウントベッド株式会社	ベッド上アシスト、 排泄情報
	株式会社安川電機	ベッド上アシスト
介護施設	特別養護老人ホーム 好日苑大里の郷	
	特別養護老人ホーム サポートセンター門司	
	特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園	
	特別養護老人ホーム 足原のぞみ苑	
	特別養護老人ホーム 杜の家	
有識者	産業医科大学 産業生態科学研究所	
	北九州市立介護実習・普及センター	